

2015年湘南藤沢学会 成果報告書
SFC SBCプロジェクト 鶴岡キャンパス視察とヒアリング

総合政策学部4年 土肥 梨恵子

【活動概要】

活動期間：2015年10月25日（金）～2015年10月27日（日）

活動場所：慶應義塾大学 鶴岡タウンキャンパス

参加者：教員2名、卒業生1名、学生4名

【活動内容】

- ・ 鶴岡タウンキャンパスの見学
- ・ 山形県庄内教育事務所主催の講演会を聴講
- ・ 鶴岡タウンキャンパス利用学生へのヒアリング
- ・ SFC卒業生、YAMAGATA DESIGN山中社長の意見交換
- ・ 富田氏、山中氏、現地学生との懇談会
- ・ 鶴岡市内の観光視察

【活動の成果】

①鶴岡タウンキャンパスの利用学生へのヒアリングや今回の滞在で利用している施設の一部で寝食を共にしたことで、学生目線の運用方法やニーズを聞き取ることができた。また、研究活動と生活の行き来もイメージできたことは大きい。今回を通して、来年4月運用開始に向けて具体像がイメージでき、運用方法の更新へとつながった。

②キャンパス創設に関わったが富田教授との意見交換・講演の聴講によって、慶應義塾内でのSFC SBCプロジェクトの意義を再認識した。また、プロジェクトを進めていく上で最初は少数派でも声をあげ続けていく必要性を感じた。参加した先生からも「富田先生が強い、そして分かり易いリーダーシップを発揮されていままでも研究所のみならず地域を巻き込んで邁進してこられた様子を直に拝見できて大変元気づけられました。」や「15年の歴史の重みとそこにかけられた熱量を思うと熱くなりました。」との声が聞かれた。

③滞在型研究教育施設を同様に保有する未来創造塾SFC SBCプロジェクトと鶴岡キャンパスとの連携だが、TTCK内の空き教室の状況や今後5年以内のTTCK周りのまちづくり（ホテルや施設の増設、プログラムの増強）の話聞き、前向きに連携していく期待・イメージができた。

④異なった研究分野の教授（バイオ・建築）と卒業生（建築）、学生（建築・バイオ・教育・観光）が、「新たな滞在型研究教育施設をつくる」という目的をもとに連携していく流れをつくれ、分野を越えた交流が生まれた。また、現場で教授による研究の解説を聞き、他分野への知識が増えた。

【今後の課題】

・ 今回、富田氏や山中氏との意見交換によって、事務局が内向きな姿勢、テーマの不明瞭さゆえに多くの人を巻き込んでいないのではないかと、という指摘を受けた。

・ TTCKとSBCのコラボが大きなイメージはできたが、今後のスケジュール・具体的な交流の内容など具体的に詰められていないため、再度富田氏と会合が必要であろう。

【活用について】

- ①2016年4月の未来創造塾1棟目の運用案への反映を2015年内に行う。反映したものを管財、キャンパス構想委員会へと持ち込む予である。
- ②慶應義塾内でプロジェクトの価値を伝え続けていく。
- ③定期的に、富田氏とコンタクトをとり具体的な企画書へと落としこんでいく際に、今回の情報を活用していく。
- ④分野を越えたプロジェクトであること、その価値が証明されたので、今後もSFCの異分野をつなぐ場としての、プラットフォーム設計を行っていく。

以上になります。